

一般国道51号(大栄拡幅) 埋蔵文化財調査報告書

— 成田市桜田神楽場遺跡 —

令和3年3月

国 土 交 通 省
公益財団法人 千葉県教育振興財団

一般国道51号(大栄拡幅) 埋蔵文化財調査報告書

なりた　さくらだかぐらば
—成田市桜田神楽場遺跡—



序 文

公益財団法人千葉県教育振興財団（文化財センター）は、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを目的として、昭和49年に設立されて以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび、千葉県教育振興財団調査報告第787集として、国土交通省の国道51号（大栄拡幅）の改築工事に伴って実施した成田市桜田神楽場遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、円筒埴輪や馬形埴輪を始めとする形象埴輪が出土するなど、この地域の古墳時代の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。

刊行にあたり、本書が学術資料として、また地域の歴史解明の資料として広く活用されることを願ってやみません。

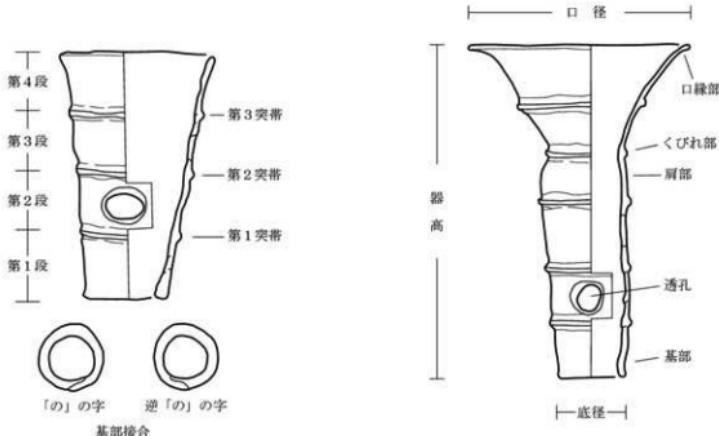
終わりに、調査に際し御指導、御協力をいただきました地元の方々をはじめとする関係の皆様や関係機関、また、発掘から整理まで御苦労をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

令和3年3月

公益財団法人 千葉県教育振興財団
理事長 稲葉 泰

凡　例

- 1 本書は、国土交通省関東地方整備局千葉国道事務所による国道51号（大栄拡幅）改築工事事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 本書に収録した遺跡は、千葉県成田市桜田字神楽場970番2ほかに所在する桜田神楽場遺跡（遺跡コード211-102）である。
- 3 発掘調査から報告書作成に至る業務は、国土交通省関東地方整備局千葉国道事務所の委託を受け、公益財団法人千葉県教育振興財團が実施した。
- 4 発掘調査および整理作業の期間、担当者などについては、第1章第1節に記載した。
- 5 本書の執筆・編集は、平井真紀子が担当した。
- 6 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、千葉県教育庁教育振興部文化財課、国土交通省関東地方整備局千葉国道事務所、成田市教育委員会の御指導、御協力を得た。
- 7 本書で使用した地形図は下記のとおりである。
 - 第1図 大栄町発行の1/2,500地形図No9 (IX-KF54-4)、No10 (IX-KF54-3)
 - 第4図 国土地理院発行 1/50,000地形図「佐原」(NI-54-19-9)、「成田」(NI-54-19-10)
 - 第5図 参謀本部陸軍部測量局 1/20,000迅速測図「浮嶋村」・「神崎本宿」・「佐原村」・「大里村」(明治14年～18年版)
- 8 図版1の航空写真は、国土地理院空中写真 CKT845-C12B-26 (昭和59年12月撮影) を使用した。
- 9 本書で使用した座標値は、世界測地系に基づく平面直角座標（国家標準直角座標第IX系）で、図面の方位は全て座標北である。
- 10 図などの表現の凡例は以下のとおりである。



本文目次

序文

凡例

第1章はじめに	1
第1節 調査の概要	1
1 調査の経緯と経過	1
2 調査・整理の方法と概要	1
第2節 遺跡の位置と環境	4
1 遺跡の位置と地理的環境	4
2 周辺の遺跡	4
第2章 調査の成果	9
第1節 遺構	9
第2節 遺物	9
第3章まとめ	23
報告書抄録	卷末

挿図目次

第1図 遺跡周辺地形図	2	第9図 円筒埴輪(3)	13
第2図 グリッド配置図及び調査範囲	3	第10図 円筒埴輪(4)	14
第3図 グリッド分割図	3	第11図 円筒埴輪(5)	15
第4図 周辺の古墳(現況図)	6	第12図 円筒埴輪(6)	16
第5図 周辺の古墳(旧況図)	7	第13図 円筒埴輪(7)・形象埴輪(1)	17
第6図 グリッド別埴輪出土量	10	第14図 形象埴輪(2)	18
第7図 1号墳周溝・円筒埴輪(1)	11	第15図 その他の遺物	19
第8図 円筒埴輪(2)	12		

表目次

第1表 桜田神楽場遺跡と周辺遺跡	5	第2表 墓輪観察表	20~22
------------------------	---	-----------------	-------

図版目次

図版1 遺跡周辺航空写真

図版2 全景・土層断面

図版3 円筒埴輪(1)

図版4 円筒埴輪(2)

図版5 円筒埴輪(3)

図版6 形象埴輪等・その他の遺物

第1章 はじめに

第1節 調査の概要（第1～3図）

1 調査の経緯と経過

国道51号は、千葉市から成田市を経て茨城県水戸市を結ぶ全長約124kmの幹線道路である。このうち、「大栄拡幅」は東関東自動車道大栄ICに接続する成田市桜田から成田市所に至る1.5kmの一部バイパス計画を含めた現道拡幅事業である。東関東自動車道と東総有料道路のアクセス向上と、交通渋滞の緩和および交通安全性の確保を目的とする。

工事に先立ち、国土交通省関東地方整備局から千葉県教育委員会に計画対象地内に所在する埋蔵文化財の取扱いについて協議依頼が提出された。対象地内には桜田神楽場遺跡および神楽場1号墳の一部が含まれていたため、関係諸機関による協議の結果、記録保存の措置を講ずることとなり、公益財團法人千葉県教育振興財団が委託を受けて発掘調査を実施した。

発掘調査と整理作業の期間および担当者は以下のとおりである。

発掘調査

令和元年度

期間 令和元年12月9日～令和2年1月24日

文化財センター長 島立 桂

調査第一課長 田島 新

担当職員 文化財主事 平井真紀子

調査面積 5,717m²

令和2年度

期間 令和2年9月1日～令和2年9月30日

文化財センター長 福田 誠

調査第一課長 田島 新

担当職員 文化財主事 平井真紀子

調査面積 1,160.06m²

整理作業

令和2年度

期間 令和2年10月1日～令和2年12月28日

文化財センター長 福田 誠

調査第一課長 田島 新

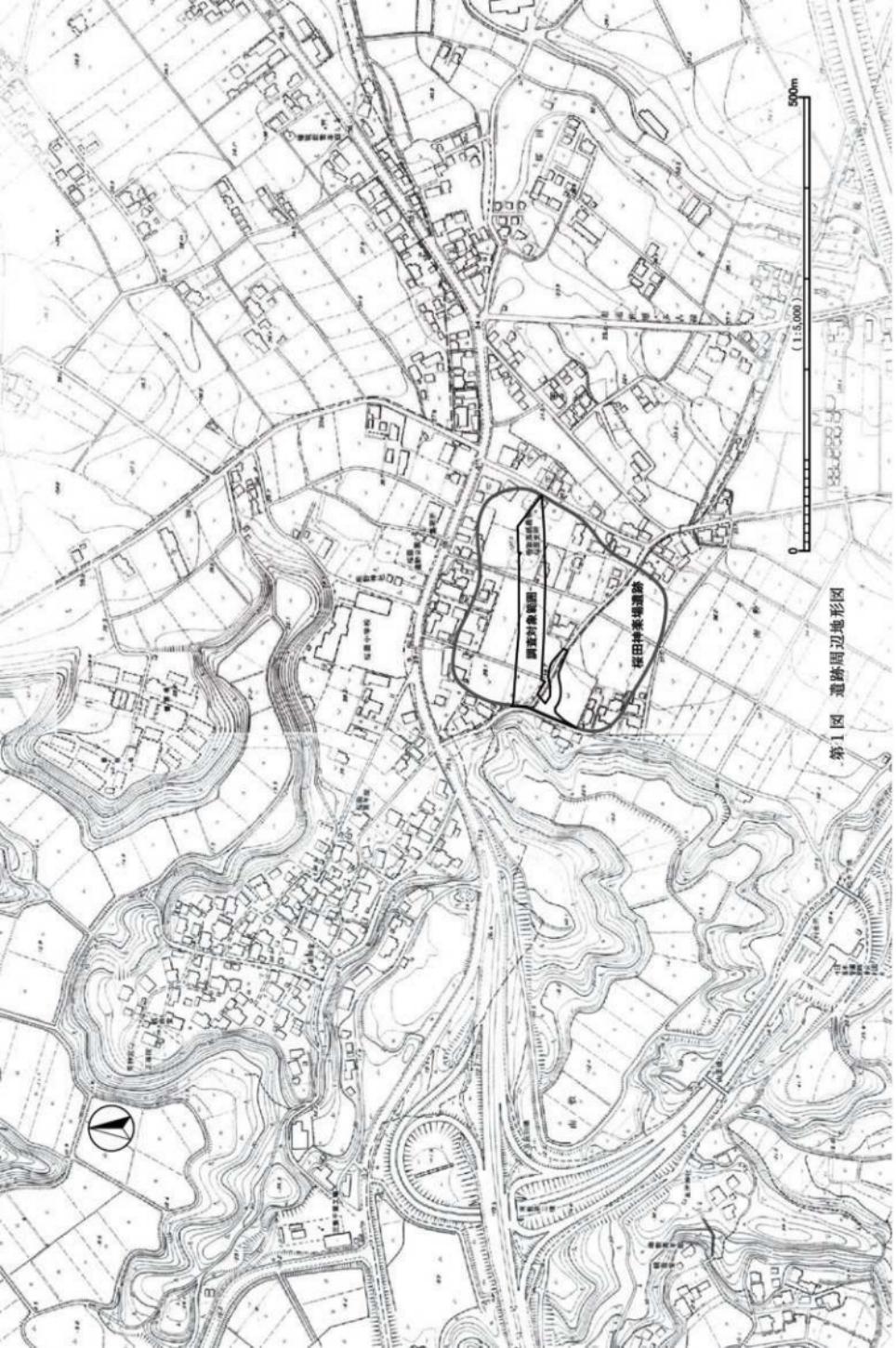
担当職員 文化財主事 平井真紀子

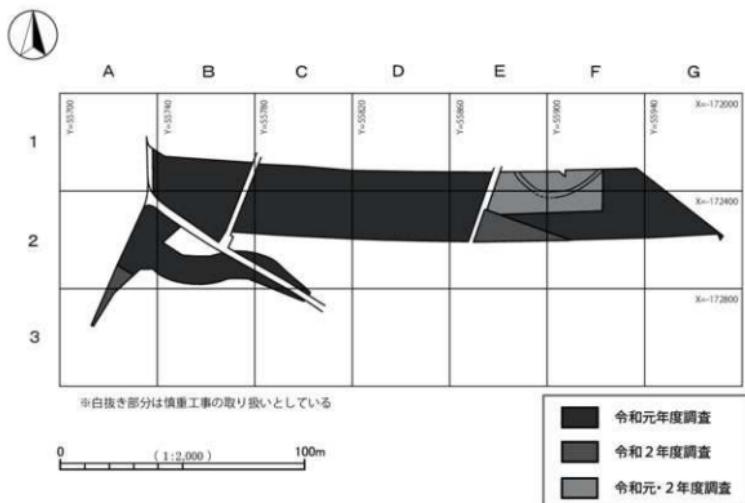
内容 水洗・注記～刊行

2 調査・整理の方法と概要

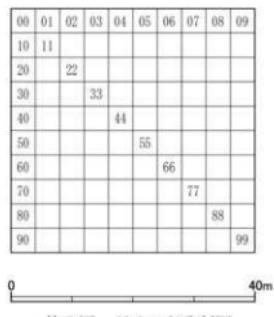
調査対象範囲には世界測地系（第IX座標系）の公共座標に基づいてグリッドを設定した。大グリッドは、X座標 -17,200m と Y 座標 55,700m の交点を基準に 40m × 40m とし、西から東へ A～G、北から南へ 1、2、

第1図 遺跡周辺地形図





第2図 グリッド配置図及び調査範囲



第3図 グリッド分割図

3の記号を付け、これらの記号を組み合わせて1A、2B、3Cのように呼称した。大グリッドの中には $4\text{ m} \times 4\text{ m}$ の小グリッド100個に分割し、北西隅を起点として西から東へ00、01、02、…、北から南へ00、10、20、…と番号を付け、南東隅が99となる（第3図）。これを大グリッドの名称と組み合わせて、例えば2E-09のように表記し、遺構・遺物の位置はこのグリッドに基づいて記録した。

桜田神楽場遺跡は、「千葉県埋蔵文化財分布地図(2) -香取・海上・匝瑳・山武地区(改訂版)-」では古墳時代の包蔵地とされ、4基の円墳を含んでいる。特に調査範囲の北東端は神楽場1号墳の一部にかかることから、周溝と埋葬施設の検出を主眼として調査を実施した。土層の変化に注意しながら、重機により慎重に表土を除去し、遺物が出土した段階で人力による掘削により切り替えた。遺物については、埴輪片の散布が周知されており、埴輪列の検出も期待されたが、耕作等による搅乱のため埴輪は原位置を留めておらず、グリッドごとに一括して取上げを行った。

本遺跡はこれまで昭和59年¹⁾と平成20年²⁾に宅地造成に伴う調査が行われているが、古墳時代に関わる遺構・遺物は検出されていない。

第2節 遺跡の位置と環境（第4・5図、第1表、図版1）

1 遺跡の位置と地理的環境

千葉県北部に展開する広大な洪積台地は「下総台地」と呼称され、大小の河川の浸食により形成された小支谷が入り込み、複雑な地形をなしている。桜田神楽場遺跡は、その中央部にあたる成田市東北部に位置し、大須賀川支流へとつながる谷頭部に面した標高39m前後の台地上に立地する。

古代の成田市周辺は、「香取海」と呼ばれる広大な内海に面していた。「香取海」は霞ヶ浦・北浦・印旛沼・手賀沼などの湖沼が一つになって形成され、下総地域と常陸地域を結ぶ水上交通の要衝とされてきた。遺跡の立地する台地は、前林地先大堀山を水源に北流して利根川へと注ぐ大須賀川と、九十九里浜に流下する栗山川との分水界にあたる。

2 周辺の遺跡

桜田神楽場遺跡が所在する大須賀川水系の台地上には、旧石器時代から歴史時代に至る数多くの遺跡が知られている。ここでは、神楽場古墳に関連する周辺地域の古墳について概観し、合わせて埴輪を出土した古墳の分布を見てみる。

大須賀川左岸から主要な古墳を概観すると、大日山古墳群（3）は前方後円墳1基、円墳2基から構成される。そのうちの1基、大日山1号墳は全長54mの前方後円墳で、舟形あるいは割竹形の木炭櫛を埋葬施設とする。5世紀中葉の築造と考えられている。北の内古墳（4）は、南北約20m、東西約14mの長方形を呈し、2基の埋葬施設が検出されている。出土した石枕、立花などの石製品類、刀劍類、須恵器などから5世紀後半とされる。武田古墳群（5）では1号墳と3号墳から円筒埴輪が出土している。特に3号墳からは原位置を保つものが5本見つかり、そのうち2本はほぼ完全な状態であった。舟塚原4号墳（6）は全長54mの前方後円墳で、埋葬施設は確認されていない。円筒埴輪の基部2本が周溝内から出土している。また、墳丘南側の調査区からは、家形・人物などの形象埴輪片が発見されている。6世紀中ごろの築造と考えられる。堀之内遺跡は円墳5基と古墳時代後期の堅穴建物跡25棟が調査されている。そのうち3号墳の周溝から円筒埴輪・人物・馬などの形象埴輪、4号墳の周溝からは円筒埴輪・朝顔形埴輪・人物・鳥・馬などの形象埴輪が出土している。鶴崎天神台3号墳は6世紀前葉に築造されたと考えられる円墳で、木棺直葬の埋葬施設から直刀・鉄鎌・馬具など、墳丘上および周溝内から円筒埴輪・人物・馬・鳥などの形象埴輪が出土している。地蔵原古墳群（10）は6基の円墳からなり、1号墳のみ調査されている。埋葬施設は凝灰岩質砂岩の箱式石棺で、直刀・鉄鎌などが出土している。周溝は未調査のため、埴輪の有無については不明である。馬番塚古墳群（11）、稻荷前古墳群は埴輪片が採集されているが、未調査のため詳細は不明である。

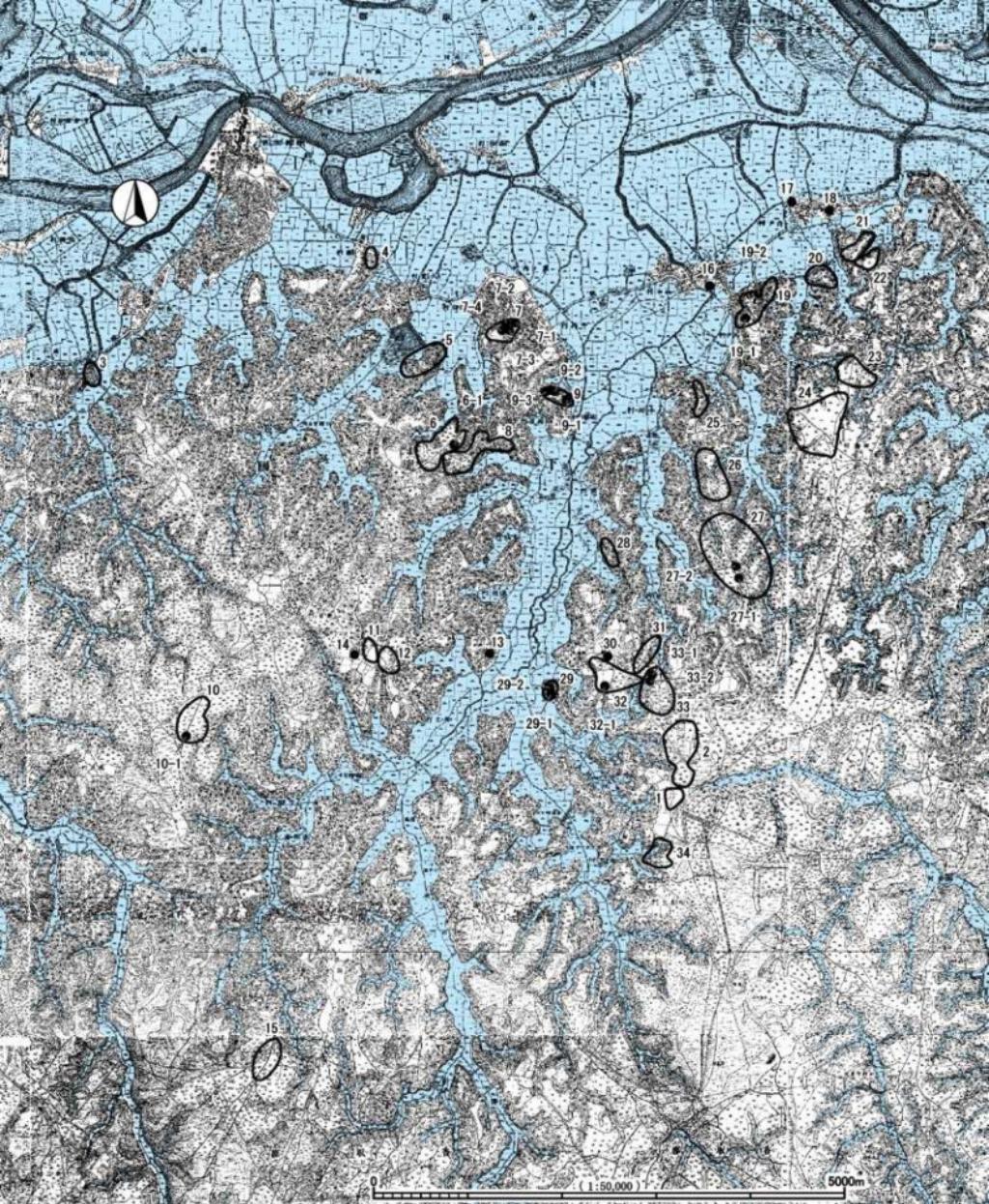
大須賀川右岸の低地部は、石枕を有する古墳が特に集中する地域である。その中で、埴輪の存在が確認されている古墳は、森戸権現前古墳（18）、森戸大法寺古墳（17）、禪昌寺山古墳（16）である。いずれも全長60m前後の前方後円墳と推測され、5世紀後葉から6世紀中葉にかけて順次築造されたとされる。台地上に目を転ずると、片野古墳群が特に注意を引く。南北に細長い台地上に展開する古墳群で、北から片野茶臼塚古墳群（25）、片野新林古墳群（26）、片野前野辺田古墳群（27）の3群に区分される。このうち片野前野辺田11号墳と23号墳から円筒埴輪と形象埴輪が出土している。11号墳出土の埴輪は下総型埴輪直前の型式とされ、神楽場1号墳出土の円筒埴輪・朝顔形埴輪とよく似た特徴を有している。桜田神楽場遺跡の立地する台地の北側には、堀籠浅間古墳群（29）、村田雷塚古墳（30）、向台古墳群（31）、かのへ塚

第1表 桜田神楽場遺跡と周辺遺跡

No.	遺跡名	所在地	概要
1	桜田神楽場遺跡	成田市桜田字御座場	土師器
I-1	神楽場古墳群	成田市桜田字神楽場	円墳4基、埴輪
2	所古墳群	成田市所字野口	前方後円墳7基、円墳6基
3	大日山古墳群	成田市高字岩床	前方後円墳1基、円墳2基 木棺櫛、土師器、鐵斧、直刀、玉類、人骨
4	北の内古墳	神崎町宇北ノ内	長方形埴輪、埋葬施設2基、土師器、石枕、立花、石製模造品、鐵劍、直刀、鐵鏡、小型鉄具
5	武田古墳群	神崎町武田字島内	円墳3基、方墳1基、埴輪
6	舟塚原古墳群	神崎町新舟塚原	前方後円墳3基、円墳8基
6-1	舟塚原4号墳	神崎町新舟塚原	前方後円墳、埴輪、土師器、石製品
7	蛭之内遺跡	香取市蛭之内平台	旧蛭之内古墳群、円墳8基、竪穴建物跡25棟
7-1	蛭之内1号墳	香取市蛭之内平台	木棺直葬、石枕、立花、直刀、鐵鏡
7-2	蛭之内2号墳	香取市蛭之内平台	箱式石棺
7-3	蛭之内3号墳	香取市蛭之内平台	土器、立花、勾玉、直刀、埴輪
7-4	蛭之内4号墳	香取市蛭之内平台	円筒埴輪棺、埴輪
8	西和田古墳群	香取市西和田字内野	前方後円墳1基、円墳6基
9	坂崎天神台遺跡	香取市坂崎	円墳4基、前方後円墳1基、方墳1基
9-1	坂崎天神台古墳	香取市坂崎字天神台	円墳、粘土標3基、鐵劍、直刀、臼玉、石製模造品（刀子・矛）
9-2	坂崎2号墳	香取市坂崎	円墳、木棺直葬、ガラス玉、埴輪、石製模造品（劍形・有孔円板）
9-3	坂崎3号墳	香取市坂崎	円墳、木棺直葬、直刀、刀子、鎌、鐵器、馬具（轡・辻金具・理状珠・銅金具）、埴輪、須恵器大甕
10	地蔵原古墳群	成田市福荷山字地蔵堂前	円墳6基
10-1	地蔵原1号墳	成田市福荷山字地蔵堂前	箱式石棺、人骨、直刀、短刀、刀子、鐵鏡、耳環
11	馬番塚古墳群	成田市衆字土塚馬番塚	円墳7基、埴輪
12	福荷前古墳群	成田市衆字土塚福荷前	円墳2基、埴輪
13	柴田古墳群	成田市柴田	円墳5基
14	衆土1号墳	成田市衆字土塚馬番塚	円墳1基
15	来光台古墳群	成田市吉岡字来光台	円墳7基
16	柳昌寺山古墳	香取市大芦川字中塙	前方後円墳、画面帶神獸鏡、直刀、矛、鐵鏡、衡角付寶、往甲小札、1字形鏡板付寶、馬銜、刻菱型杏葉、円筒埴輪
17	森戸大法寺古墳	香取市森戸字上宿	前方後円墳、圓筒埴輪
18	森戸稚現前古墳	香取市森戸字稚現前	前方後円墳、埴輪
19	大芦天神台古墳群	香取市大芦字天神台	前方後円墳2基、円墳3基
19-1	大芦天神台古墳	香取市大芦字天神台	前方後円墳
19-2	大芦宮1号墳	香取市大芦字宮作	長方墳、木棺直葬、石枕、立花、石製刀子、臼玉、鐵製刀子、鐵劍
20	山之辺手ひろがり古墳群	香取市山之辺へたの前	長方墳4基、方墳2基、円墳1基
21	玉造古墳群	香取市玉造字玉作	前方後円墳3基、円墳13基
22	花ヶ台古墳群	香取市玉造字花ヶ台	円墳4基
23	山之辺原古墳群	香取市山之辺	円墳4基、土師器、圓筒埴輪
24	大芦白幡古墳群	香取市大芦字白幡	前方後円墳28基、円墳4基、箱式石棺・人骨、刀子、耳環、玉類
25	片野茶臼塚古墳群	香取市片野字茶臼塚	前方後円墳3基、円墳1基
26	片野新林古墳群	香取市片野字新林	前方後円墳2基、円墳7基
27	片野前辺田古墳群	香取市片野字前辺田	前方後円墳8基、円墳16基
27-1	片野前辺田1号墳	香取市片野字前辺田	前方後円墳、木棺直葬、直刀、刀子、鐵鏡、円筒埴輪、新顎形埴輪、形象埴輪（人物・馬）
27-2	片野前辺田23号墳	香取市片野字前辺田	前方後円墳、木棺直葬、直刀、刀子、鐵鏡、円筒埴輪、新顎形埴輪、形象埴輪（人物・馬）
28	閑峯崎横穴群	香取市閑峯崎	横穴4基、金銅製押出弘、勾玉、土師器
29	蛭籠浅間古墳群	成田市蛭籠字浅間	方墳2基
29-1	蛭籠浅間1号墳	成田市蛭籠字浅間	方墳、土塚3基、壺、小型壺
29-2	蛭籠浅間2号墳	成田市蛭籠字浅間	方墳、土塚1基、器台、壺（燒成前底部穿孔）
30	村田雷塚古墳	成田市蛭籠字鶴の煙	埴形不明、箱式石棺、須恵器
31	向台古墳群	成田市村田字向台	円墳1基、不明3基
32	かのへ塚古墳群	成田市村田字新松原	前方後円墳2基、円墳2基、方墳1基、不明3基
32-1	かのへ7号墳	成田市村田字前原	方墳、箱式石棺、直刀、刀子、鐵鏡、飾り弓金具
33	水神作古墳群	成田市村田字ノ宮	前方後円墳1基、円墳5基
33-1	天之宮1号墳	成田市村田字天ノ宮	円墳、箱式石棺、須恵器（長鏡底）
33-2	天之宮2号墳	成田市村田字天ノ宮	円墳、箱式石棺、須恵器（長鏡底）
34	六ツ塚古墳群	成田市南斎学六ツ塚	円墳3基、方墳1基



第4図 周辺の古墳(現況図)



第5図 Nagaoka周辺の古墳（旧況図）

古墳群（32）、水神作古墳群（33）が所在する。堀籠浅間2号墳は4世紀代の築造とされる大須賀川流域最古の古墳で、底部を穿孔した壺形土器が出土している。村田雷塚古墳、かのへ塚7号墳、水神作古墳群の埋葬施設は、片岩系の板石を使用した箱式石棺が多いと推測される。国道51号を隔てた北側には、所古墳群（2）が所在する。発掘調査が行われていないため詳細は不明だが、神楽場古墳群を含めて一連の古墳群とする見解もある³⁾。

本遺跡より南には六ツ塚古墳群があるが、調査前に墳丘の削平が行われ、埴輪などの出土は報告されていない。

注

- 1) 千葉県教育委員会 1984「千葉県埋蔵文化財発掘調査抄報」昭和59年度
- 2) 黒沢哲郎 2009「桜田神楽場遺跡」『平成20年度成田市内遺跡発掘調査報告書』成田市教育委員会
- 3) 杉山晋作 1995「古墳時代」「大栄町史 資料編1 原始古代・中世」大栄町

参考文献

- 1) 市毛 繁・多宇邦雄・安藤鴻基 1972「舟塚原古墳 第一次発掘調査概報」舟塚原古墳調査団
- 2) 栗本佳弘 1972「武田古墳群発掘調査概報」武田古墳群発掘調査団
- 3) 尾崎喜佐雄・小林敏夫・右鳥和夫・富沢敏弘 1976「下総片野古墳群」芝山はにわ博物館
- 4) 栗田則久ほか 1982「東関東自動車道沿線文化財調査報告書Ⅲ・大栄地区(2)-」(財)千葉県文化財センター
- 5) 渋谷興平ほか 1982「堀之内遺跡」東京文化史学会
- 6) 鶴前善英ほか 1984「千葉県大栄町村田天之宮遺跡発掘調査報告書」村田天之宮遺跡発掘調査会
- 7) 石橋宏克 1985「千葉県香取郡大栄町遺跡分布調査報告書」大栄町教育委員会
- 8) 原田亨二ほか 1988「佐原市内遺跡群発掘調査概報Ⅱ」佐原市教育委員会
- 9) 千葉県教育委員会 1988「千葉県埋蔵文化財分布地図(2) -香取・海上・匝瑳・山武地区(改訂版) -」
- 10) 千葉県教育委員会 1990「千葉県所在古墳群詳細分布調査報告書」
- 11) 黒沢哲郎 1991「六ツ塚古墳」「事業報告1」(財)香取都市文化財センター
- 12) 萩 悅久 1994「千葉県佐原市森戸大法寺古墳の埴輪」「東邦考古」第18号 東邦考古学研究会
- 13) 荒井世志紀 1994「鴫崎天神台遺跡」(財)香取都市文化財センター
- 14) 萩原恭一ほか 1994「千葉県文化財センター研究紀要15」(財)千葉県文化財センター
- 15) 杉山晋作 1995「古墳時代」「大栄町史 史料編1 原始古代・中世」大栄町
- 16) 荒井世志紀 1999「大栄町内遺跡発掘調査報告書 -かのへ塚7号墳-」大栄町教育委員会
- 17) 萩原恭一・白井久美子 1999「佐原市大戸天神台古墳測量調査報告」「千葉県史研究」第7号 千葉県
- 18) 池上 悟 2002「佐原市内所在古墳実測調査報告」「佐原の歴史」第2号 佐原市教育委員会
- 19) 千葉県資料研究財团 2003「千葉県の歴史 資料編 考古2 (弥生・古墳時代)」千葉県

第2章 調査の成果

第1節 遺構（第6・7図、図版2）

桜田神楽場遺跡内に所在する神楽場古墳群は、4基の円墳から構成され、大栄町教育委員会による分布調査の成果では、「一部の古墳で耕作による破壊のため埴輪片が散乱」と記載されている（『千葉県香取郡大栄町遺跡分布調査報告書』）。調査前に周辺の状況を確認したところ、4基のうち1号墳・2号墳は確認できたが、3号墳・4号墳はすでに消滅していた。今回、1号墳の南側の一部と、遺跡北側部分について調査を実施した。

検出された1号墳の周溝は、幅1.0m～2.3m、確認面からの深さ18cm～37.0cmであった。所々擾乱を受けているが、東側にやや広がる不整な円形を呈すると思われる。床面はほぼ平坦で、ビット等は検出されなかった。確認面、周溝床面とも東へ行くにつれ深くなっている、周溝西端と東端では最大で50cmほどの差が認められる。調査前、墳丘の一部が残っていると思われたが、精査の結果、削平を受け盛土等は残っていないことが確認された。墳丘径は約30mと推測される。

調査区の西側に遺構は検出されなかった。

第2節 遺物

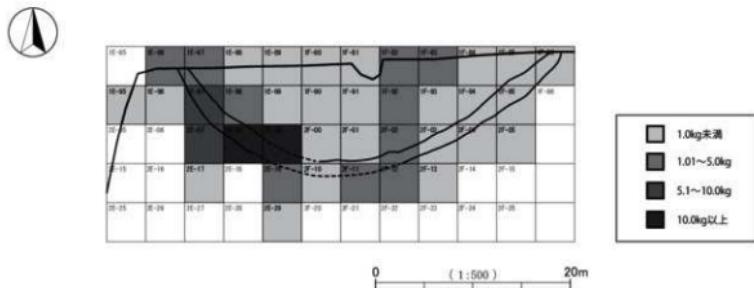
1号墳の南側からは多数の埴輪片が出土した。その内容は、普通円筒埴輪（以下円筒埴輪と記す）、朝顔形円筒埴輪（以下朝顔形埴輪と記す）、人物や馬・鶏などの形象埴輪で、総重量は111.4kgであった。いずれも原位置は留めておらず、グリッドごとに一括して取り上げを行った。グリッドにより埴輪片の出土量に多寡が見られるため、グリッド単位で埴輪片の重量を計測し、分布図を作成した（第6図）。2E-09グリッド周辺で特に集中しているが、このグリッド周辺は大きく擾乱を受けており、耕作時に掘り起こされた埴輪を一括して廃棄したものと思われる。

1 円筒埴輪（第7～13図、第2表、図版3～5）

円筒埴輪には、円筒埴輪と朝顔形埴輪がある。円筒埴輪は61点、朝顔形埴輪は13点を図示した。1～30・44～74までが円筒埴輪、31～43が朝顔形埴輪である。第1～3段のみの残存では円筒埴輪か朝顔形埴輪かの判別は難しく、実際にはもう少し朝顔形埴輪が多いかもしれない。

（1）円筒埴輪

円筒埴輪は、基部から口縁部まで完全に遺存している個体は1点もなかったが、突帯部分の径や透孔の位置などから3条4段構成であると思われる。透孔は第2段または第3段に1対ずつ、位置をほぼ90度ずらしながら穿孔される。透孔の形状は横長の楕円形で、突帯のナデ部分にかかるように、段内いっぱいに大きく穿孔されるものが多い。外面調整は、タテハケによる一次調整のみで、二次調整を欠く。内面調整は口縁部上半がヨコハケ、その下はナデが施される。口縁端部にハケ調整後ヨコナデが施されるものもある。明瞭な粘土紐接合痕をもつ個体は少ないが、器面に凹凸が残るなど、さほど丁寧ではないものが多い。突帯の断面形は台形を基本とし、上部の稜に比べて下部の稜がやや曖昧なものが多い。突帯貼付けに際し、突帯下方のヨコナデが弱いため、接合痕が残るものも見られる。底部調整はなく、板目状の敷物圧痕が見られる個体が多い。基部接合は、埴輪を倒立させて見た場合、接合の仕方で「の」、逆「の」の字状接合



第6図 グリッド別埴輪出土量

に分類した。確認できたものは逆「の」の字が圧倒的に多かった。胎土については、肉眼観察によって確認することのできた各種砂粒等の種類を示したが、基本的にすべて同胎土の範疇で捉えられ、白色粒子と大粒の赤色粒子（第二酸化鉄）が多量に含まれる特徴を持つ。黒斑のみられる個体はなく、焼成は窯窓によるものと考えられる。色調は赤褐色、あるいは橙色を呈し、一見焼き上がりは良さそうだが、断面を観察すると内面まで火が回っていない個体が多い。そのような個体は表に「やや不良」と表記した。

復元個体が多く正確さを欠くが、底部径の平均は13.9cm、口縁部径の平均は26.1cmである。

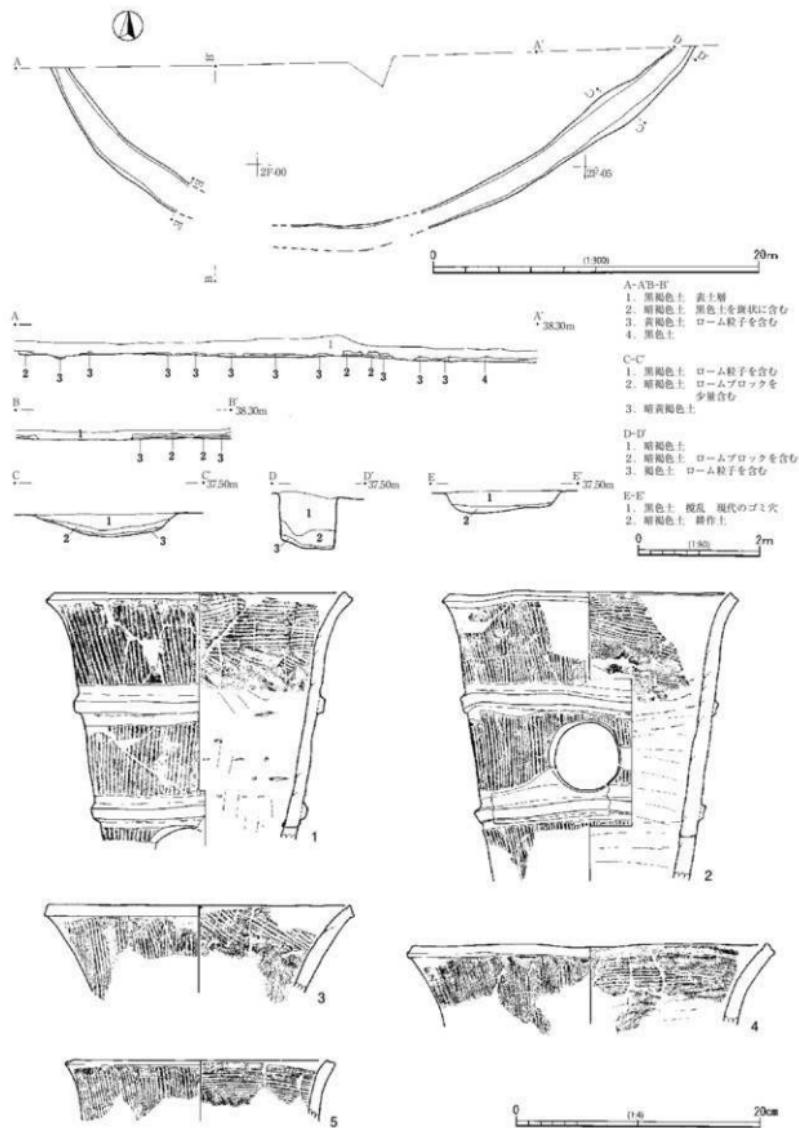
(2) 朝顔形埴輪

朝顔形埴輪も基部から口縁部まで完全に遺存している個体はなかったが、竜角寺101号墳などの類例を参考にすると、5条6段構成になると思われる。第4突帯の部分がくびれ部に相当する。肩部で丸くすぼまり、第5段で直線的に開いた後、第5突帯でわずかに向きを変えながら、外反する口縁部へと至る。1段から4段までの調整、透孔の位置や数などは円筒埴輪と共通の特徴を有する。くびれ部より上、5段目・6段目の内面にはヨコハケ及びナデが施される。

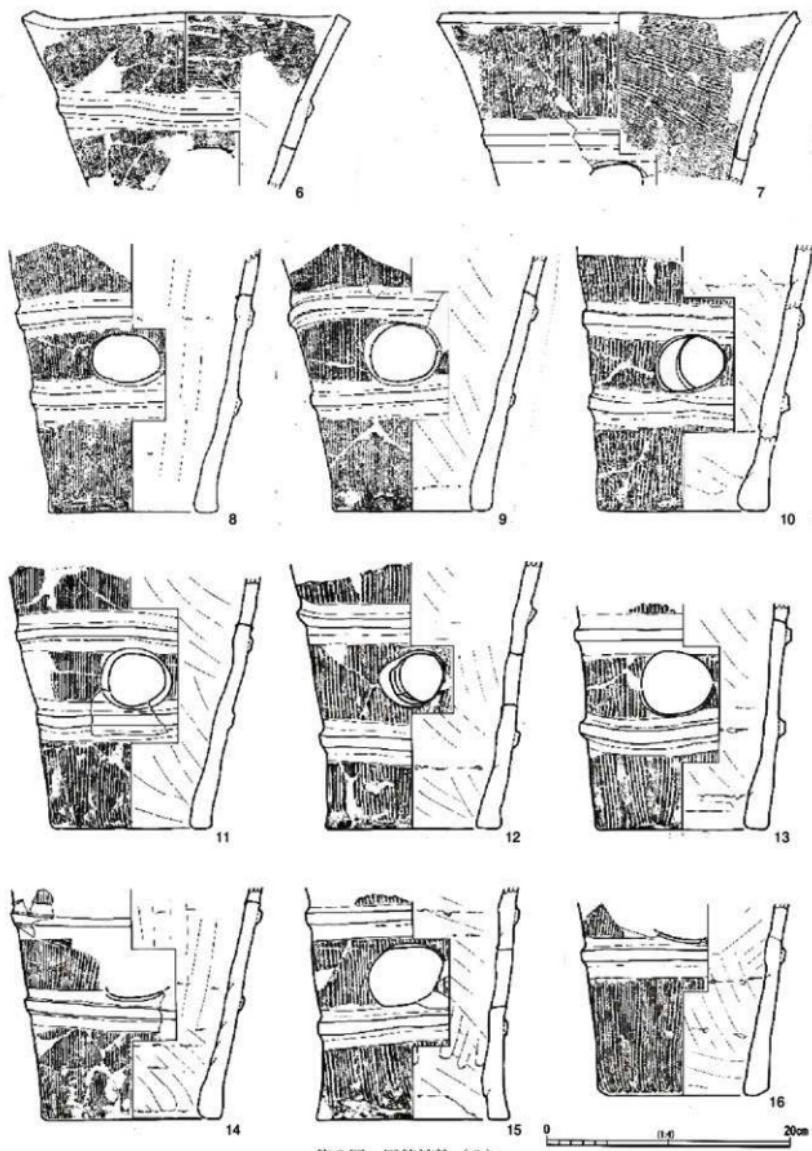
2 形象埴輪（第13・14図、第2表、図版5・6）

出土した形象埴輪は小破片が多く、接合作業を行っても全体を把握できる個体はなかった。75～89が人物または人物に付属するものの埴輪、90は動物埴輪の一部と思われるもの、91は盾形埴輪、92～94は家形埴輪、98は鶏、99～105は馬または馬に付属する馬具である。95～97は器種不明だが、胎土や形に特徴があるため図化した。

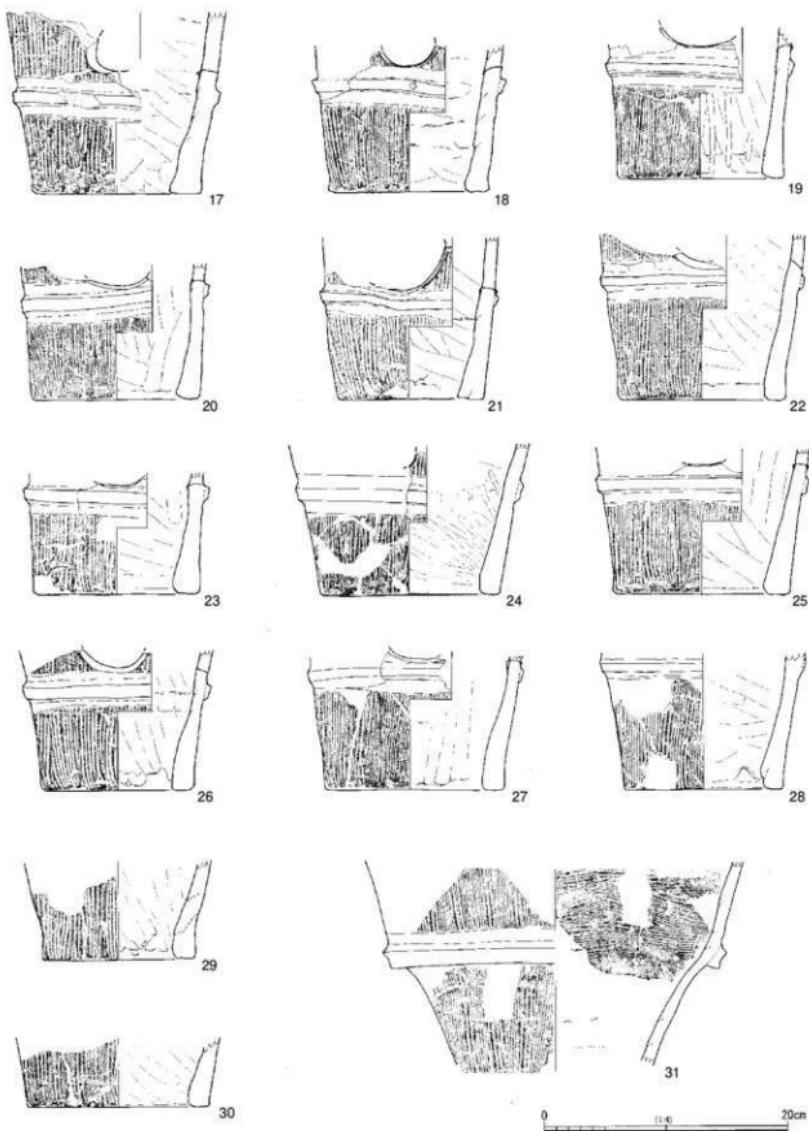
75・76は人物の首で、頭部を体にソケット状に差し込む様子が断面から観察できる。75は胎土に雲母を含み、茨城県取手市の市之代3号墳から出土し、「市之代型」と呼ばれる埴輪と類似する。77・78は手で、指の表現はなく、丸く作られる。79・80は腕で、79は白土による斑状文を有する。81は肩で、中空となる胸部に腕が接合されている。82～84は人物の服の裾を表現したものか。83・84は突帯部分に円形刺突文が施されている。85・86はボタン状の貼付け文で、首飾りの一部と思われる。87～89は外面タテハケ調整後突帯が貼り付けられている。いずれも胎土に雲母、長石、赤色粒子を含む。円筒埴輪の可能性もあるが胎土が異なるため、人物埴輪の基台部とした。90も一見円筒埴輪のようだが、推定される径が小さく、外面のハケ部分にナデが施されていることから、動物埴輪の脚と判断した。



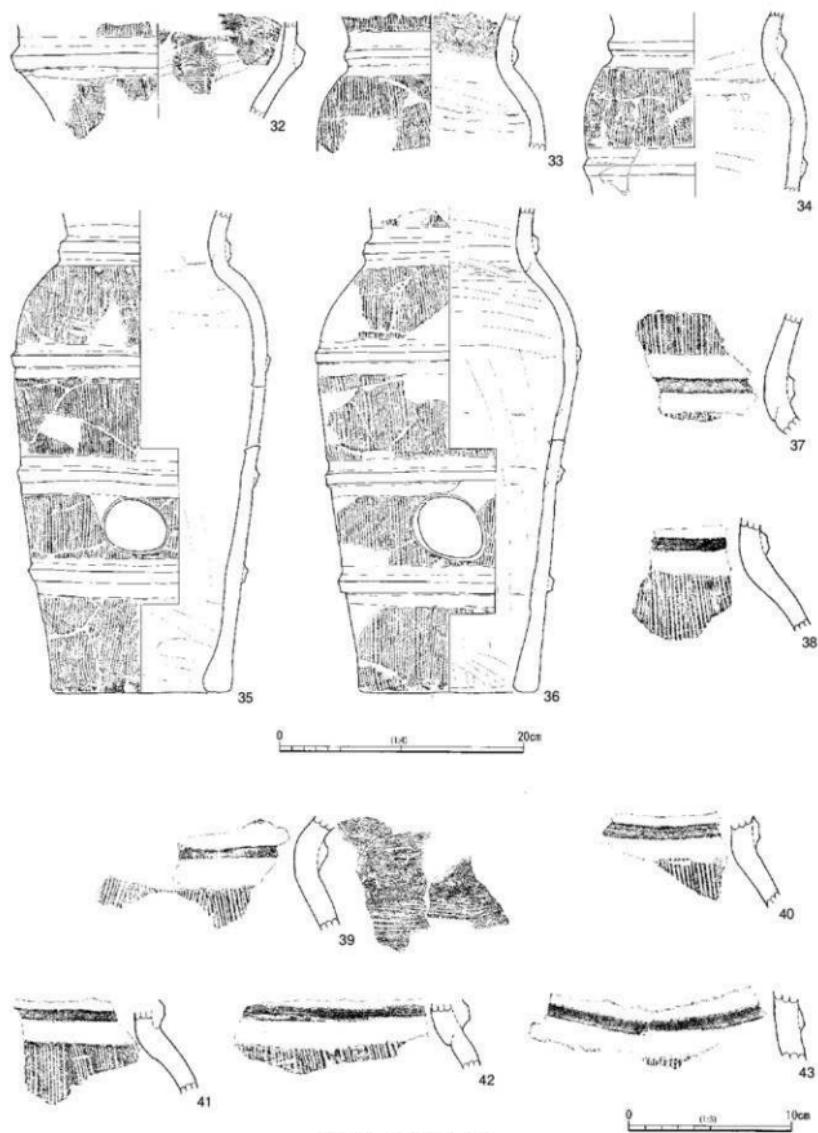
第7図 1号墳周溝・円筒埴輪(1)



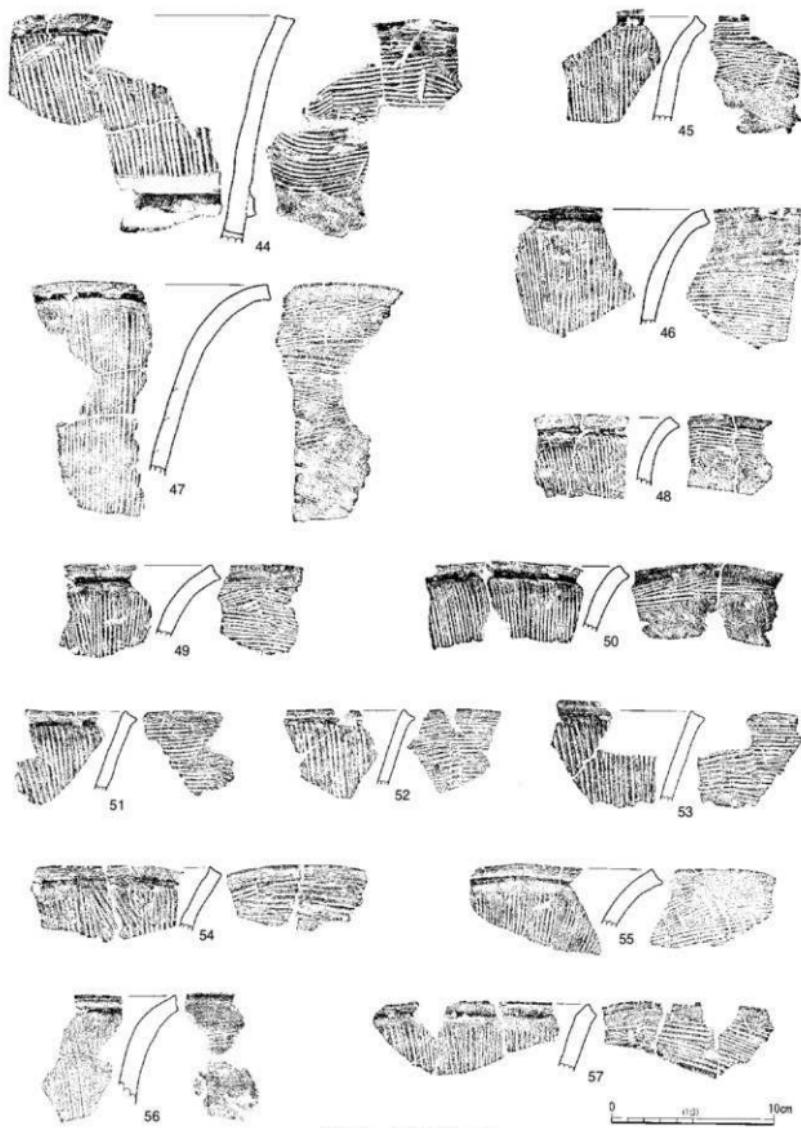
第8図 円筒埴輪（2）



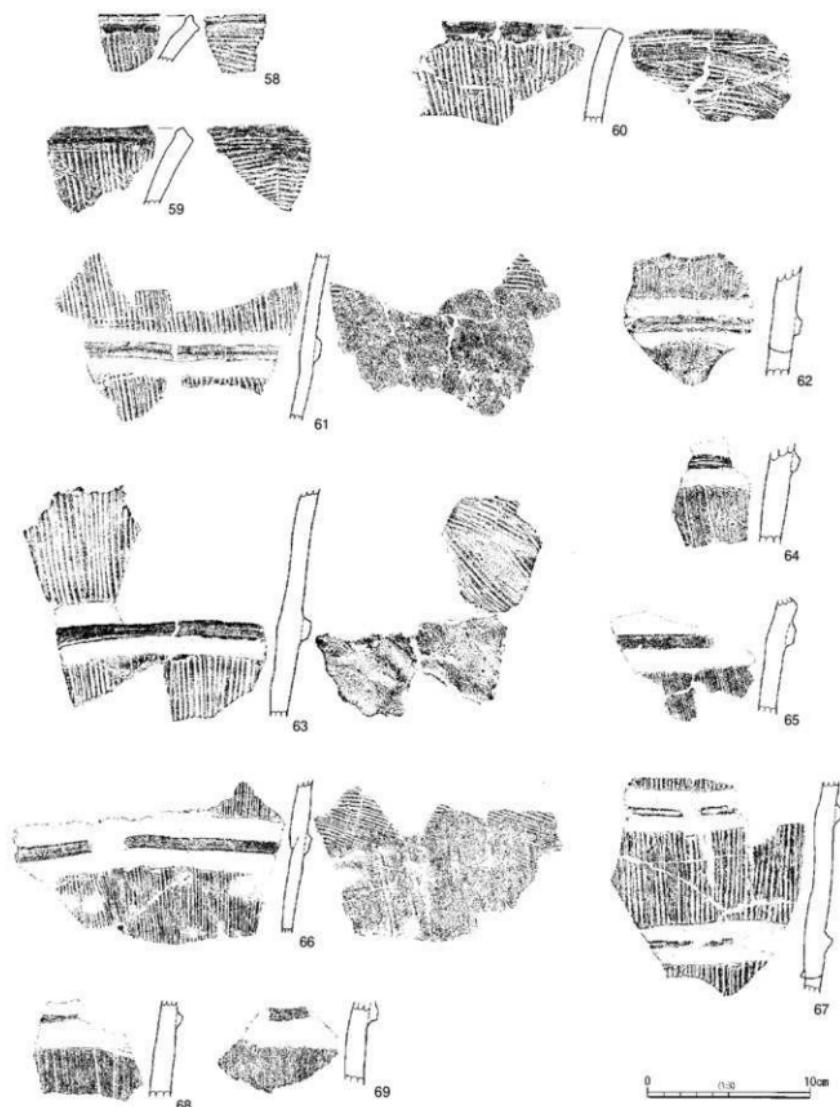
第9図 円筒埴輪（3）



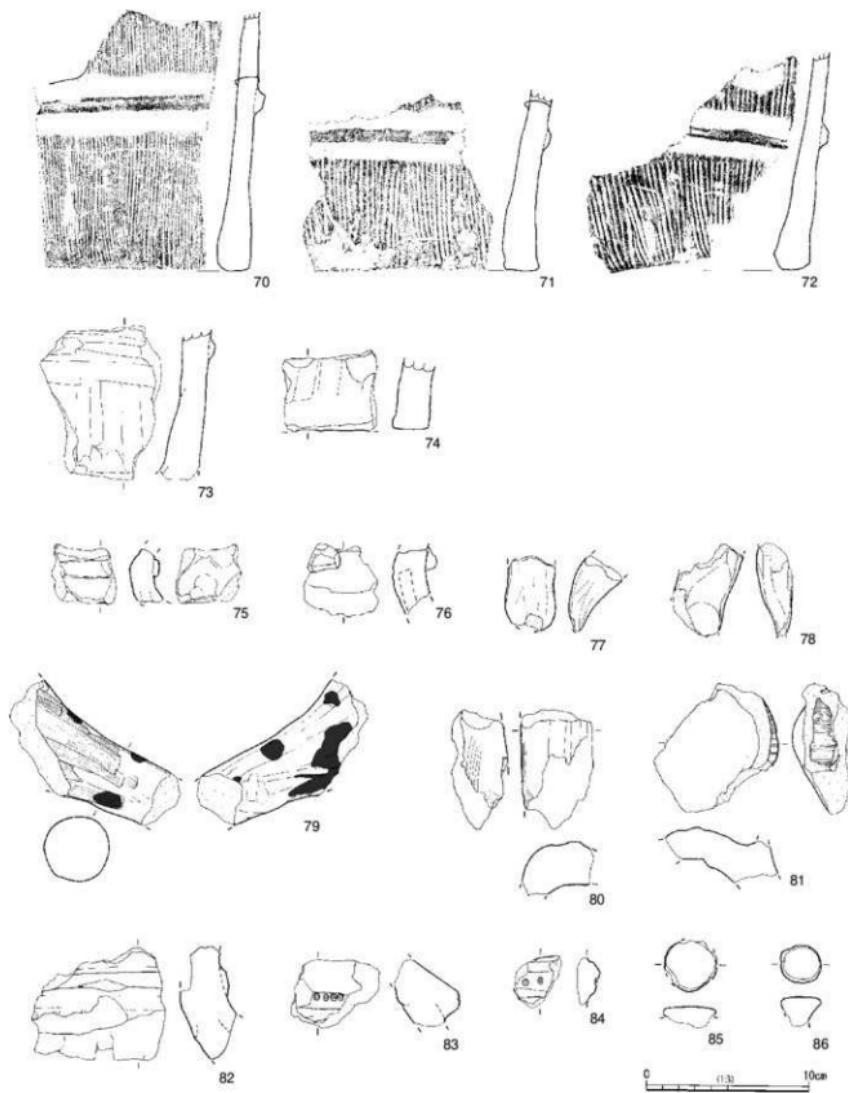
第10図 円筒埴輪（4）



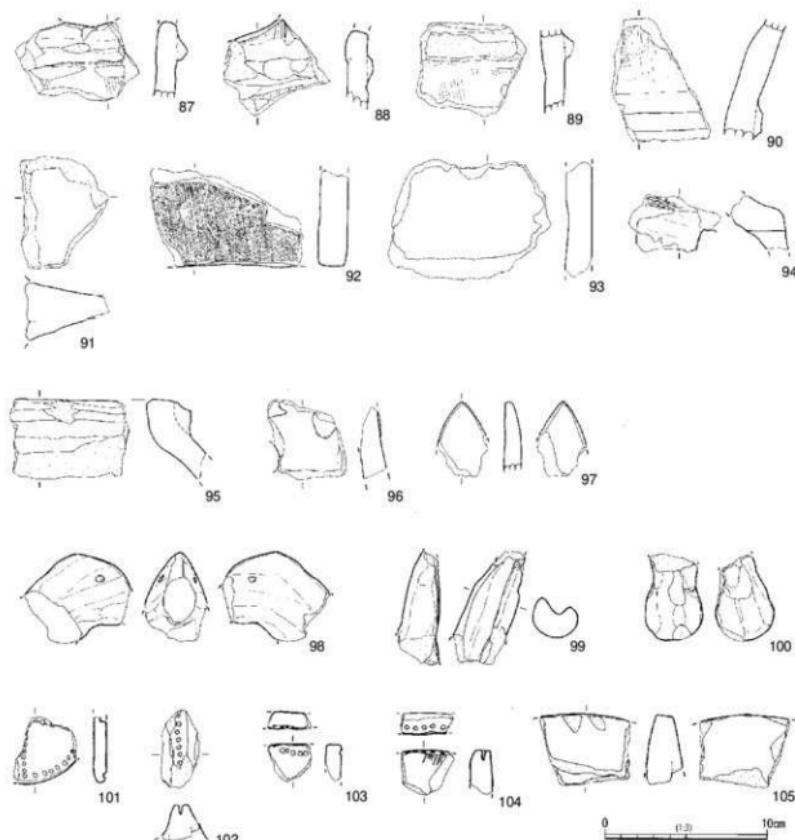
第11図 円筒埴輪（5）



第12図 円筒埴輪（6）



第13図 円筒埴輪（7）・形象埴輪（1）



第14図 形象埴輪（2）

91は盾形埴輪の鰭部分で、左側面に接合面が残っている。92～94は家形埴輪の一部、92は遺存部下端が丁寧にナデ成形されており、入り口部分と思われる。外面にはタテハケが施されている。94は方形の切込みがあり、これも入り口部分を表現したものと思われる。91～93は胎土に雲母、長石を含む。95は内湾する口縁部片で、口唇直下に突帯が貼り付けられる。96は遺存部上端に貼付け文が並ぶ。ともに胎土に雲母を含む。97は表面が丁寧にナデ調整された厚さ1.1cmの破片である。轡鏡板の一部、もしくは人物埴輪の装飾か。胎土に白色粒子、赤色粒子を含む。

98は鶏の頭部である。目は刺突文で表現され、嘴を欠損している。鶏冠がないことから雌鶏であろう。99は馬の耳で、断面がU字状を呈する。100は鈴、101は轡の鏡板で、周縁部と内側に刺突文が施されている。102～105は鞍である。いずれも胎土に雲母、長石を含む。102～104は刺突による列点文が施されてい

る。皮革製品と考えられる部分に刺突文を施す例は茨城県に多くみられる表現で、茨城県土浦市真鍋町台古墳出土の馬形埴輪などに類例がみられる。

3 金属製品・石棺材（図版6）

図化はしていないが、埴輪の他に金属製品、雲母片岩を主体とした石片がそれぞれ数点ずつ出土している。図版6の106～108はいずれも鉄錐片で、106は錐身の一部、107は頭部、108は複数の頭部や基部が鋸着したもの。109～111はいずれも片岩系の石片で、扁平な板石状であり、箱式石棺の棺材の一部であると考えられる。



第15図 その他の遺物

4 その他の遺物（第15図、図版6）

(1) 繩文土器

4点を図示した。1、2は縄文時代早期の田戸下層式である。1は集合沈線による綾杉文、2はやや太めの沈線による綾杉文で、沈線の下端に半円状の工具痕がみられる。3は縄文時代中期の加曾利E式で、単節RLを縦方向に施している。4は単節RLが施された胴部破片で、橙褐色を呈する。時期・型式は不明である。

(2) かわらけ

5はかわらけの皿である。口径11.9cm、底径5.8cm、器高5.3cm、色調は黄橙色である。胎土に少量の雲母と長石を含む。ロクロ成形で、底部は回転糸切り後無調整である。灯明皿として口唇部を打ち欠いたが、使用した形跡はみられない。15世紀頃のものと思われる。

第2表 填輪観察表(1)

< <既存車 () 定義

No.	盛存率	口径(cm)	底径(cm)	標高(cm)	地土	色調	成形・調整	供成	基部接合	調査
1	2~4段の50%	(25.2)	—	(26.0)	砂粘 赤色蛇子(大)	内外面：2.5186/6 褐色	外面：タテハケ 内面：横方向のナデ 口縁部ヨコハケ 地土接合板	やや不良	—	
2	2~4段の30%	(24.2)	—	(23.8)	白色蛇子 赤色蛇子(大)	内外面：2.5186/6 褐色	外面：タテハケ 内面：横方向のナデ 口縁部ヨコハケ 地土接合板	やや不良	—	
3	口縁部15%	(25.4)	—	<7.3>	白色蛇子 赤色蛇子(大)	内外面：2.5186/6 褐色	外面：タテハケ 内面：横方向のナデ 口縁部ヨコハケ 地土接合板	良	—	
4	口縁部20%	(28.0)	—	(6.6)	白色蛇子 赤色蛇子(大)	内外面：2.5186/6 褐色	外面：タテハケ 内面：横方向のナデ 口縁部ヨコハケ 地土接合板	良	—	
5	口縁部10%	(22.2)	—	(4.9)	白色蛇子 赤色蛇子(大)	内外面：2.5186/6 褐色	外面：タテハケ 内面：横方向のナデ 口縁部ヨコハケ 地土接合板	良	—	
6	2~4段の20%	(27.0)	—	(11.3)	白色蛇子 赤色蛇子(大)	内外面：2.5186/6 褐色	外面：タテハケ 内面：横方向の縁部ヨコハケ 地土接合板	良	—	
7	2~4段の20%	(29.8)	—	(14.7)	白色蛇子 赤色蛇子(大)	内外面：2.5186/6 褐色	外面：タテハケ 内面：横方向の縁部ヨコハケ 地土接合板	良	—	
8	1~3段の40%	—	(14.0)	(21.1)	白色蛇子 赤色蛇子(大)	内外面：2.5186/6 褐色	外面：タテハケ 内面：横方向のナデ 地土接合板	やや不良	—	
9	1~2段の60%	—	13.2	(20.9)	病蛇 赤色蛇子(大)	内外面：2.5186/6 褐色	外面：タテハケ 内面：横方向のナデ	やや不良	悪「(o)	
10	1~3段の70%	—	13.8	(21.8)	白色蛇子 赤色蛇子(大)	内外面：2.5186/6 褐色	外面：タテハケ 内面：斜め、横方向のナデ 地土接合板	やや不良	悪「(o)	
11	1~3段の30%	—	13.2	(21.6)	砂粘 赤色蛇子(大)	内外面：2.5186/6 褐色	外面：タテハケ 内面：横方向のナデ	やや不良	悪「(o)	
12	1~3段の70%	—	14.4	(21.8)	白色蛇子 赤色蛇子(大)	内外面：2.5186/6 褐色	外面：タテハケ 内面：横方向のナデ 地土接合板	やや不良	悪「(o)	
13	1~3段の20%	—	(14.2)	(19.6)	白色蛇子 赤色蛇子(大)	内外面：2.5186/6 褐色	外面：タテハケ 内面：横方向のナデ 地土接合板	不良	—	焼きムラ有
14	1~3段の30%	—	(14.9)	(18.9)	白色蛇子 赤色蛇子(大)	内外面：2.5186/6 褐色	外面：タテハケ 内面：横方向のナデ 地土接合板	やや不良	—	
15	1~2段の20%	—	(15.9)	(19.6)	白色蛇子 赤色蛇子(大)	内外面：2.5186/6 褐色	外面：タテハケ 内面：横方向のナデ 地土接合板	やや不良	悪「(o)	
16	1~2段の30%	—	(14.0)	(15.8)	白色蛇子 赤色蛇子(大)	内外面：2.5186/6 褐色	外面：タテハケ 内面：横方向のナデ 地土接合板	やや不良	—	
17	1~2段の20%	—	(14.0)	(14.0)	白赤蛇 赤色蛇子(大)	内外面：2.5186/6 褐色	外面：タテハケ 内面：横方向のナデ 地土接合板	やや不良	悪「(o)	
18	1~2段の30%	—	(13.2)	(12.6)	白色蛇子 赤色蛇子(大)	内外面：2.5186/6 褐色	外面：タテハケ 内面：斜め、横方向のナデ 地土接合板	やや不良	—	
19	1~2段の10%	—	(13.0)	(12.3)	白色蛇子 赤色蛇子(大)	内外面：2.5186/6 褐色	外面：タテハケ 内面：横方向のナデ 地土接合板	やや不良	—	
20	1~2段の20%	—	(13.9)	(11.0)	白色蛇子 赤色蛇子(大)	内外面：2.5186/6 褐色	外面：タテハケ 内面：横方向のナデ 地土接合板	やや不良	—	
21	1~2段の40%	—	12.0	(13.0)	白色蛇子 赤色蛇子(大)	内外面：2.5186/6 褐色	外面：タテハケ 内面：横方向のナデ 地土接合板	やや不良	悪「(o)	
22	1~2段の60%	—	13.8	(11.6)	白色蛇子 赤色蛇子(大)	内外面：2.5186/6 褐色	外面：タテハケ 内面：横方向のナデ 地土接合板	良	悪「(o)	
23	1段20%	—	(13.0)	(16.6)	白色蛇子 赤色蛇子(大)	内外面：2.5186/6 褐色	外面：タテハケ 内面：横方向のナデ 地土接合板	やや不良	—	
24	1~2段の20%	—	14.0	(12.0)	白色蛇子 赤色蛇子(大)	内外面：2.5187/6 褐色	外面：タテハケ 内面：斜め、横方向のナデ 地土接合板	やや不良	—	
25	1段20%	—	(12.6)	(11.0)	白色蛇子 赤色蛇子(大)	内外面：2.5186/6 褐色	外面：タテハケ 内面：横方向のナデ 地土接合板	やや不良	悪「(o)	
26	1~2段の30%	—	(12.6)	(11.0)	白色蛇子 赤色蛇子(大)	内外面：2.5185/6 褐色	外面：タテハケ 内面：横方向のナデ 地土接合板	やや不良	—	焼きムラ有
27	1段20%	—	14.0	(11.0)	白色蛇子 赤色蛇子(大)	内外面：2.5186/6 褐色	外面：タテハケ 内面：横方向のナデ 地土接合板	やや不良	悪「(o)	
28	1段20%	—	(13.2)	(11.2)	白色蛇子 赤色蛇子(大)	内外面：2.5187/6 褐色	外面：タテハケ 内面：横方向のナデ	不良	悪「(o)	
29	1段50%	—	(12.6)	(8.0)	白色蛇子 赤色蛇子(大)	内外面：2.5186/6 褐色	外面：タテハケ 内面：横方向のナデ	やや不良	—	
30	1段10%	—	(16.0)	(3.7)	砂粘 赤色蛇子(大)	内外面：2.5186/6 褐色	外面：タテハケ 内面：横方向のナデ	やや不良	悪「(o)	
31	5~6段の20%	—	—	(15.8)	白色蛇子 赤色蛇子(大)	内外面：2.5186/6 褐色	外面：タテハケ 内面：横方向のナデ 地土接合板	やや不良	—	網面
32	5~6段の30%	—	—	(7.9)	砂粘 赤色蛇子(大)	内外面：2.5189/6 褐色	外面：タテハケ 内面：横方向のナデ 地土接合板	やや不良	—	網面
33	4~5段の10%	—	—	(11.0)	砂粘 赤色蛇子(大)	内外面：2.5186/6 褐色	外面：タテハケ 内面：タテ後壁設置上部にヨコハケ複数 地土接合板	やや不良	—	網面
34	4~5段の20%	—	—	(14.8)	白色蛇子 赤色蛇子(大)	内外面：2.5187/6 褐色	外面：タテハケ 内面：斜め、横方向のナデ 地土接合板	やや不良	—	網面
35	4~5段の60%	—	—	14.0	白色蛇子 赤色蛇子(大)	内外面：2.5187/6 褐色	外面：タテハケ 内面：斜め、横方向のナデ 地土接合板	やや不良	—	網面
36	1~5段の60%	—	—	14.0	白色蛇子 赤色蛇子(大)	内外面：2.5186/6 褐色	外面：タテハケ 内面：斜め、横方向のナデ 地土接合板	やや不良	悪「(o)	網面

第2表 塗輪観察表(2)

<現存長() 検定

No.	部位	標高(m)	地土	色調	成形・調整	状況	備考
37	朝顔 くびれ部	(7.4)	白色松子	内外面：S187.4/ 暗色	外面：タテハケ 内面：ナデ	やや不良	
38	朝顔 くびれ部	(7.0)	白色松子(大)	内外面：S186.8/ 暗色	外面：タテハケ 内面：ナデ	やや不良	
39	朝顔 肩～くびれ部	(7.0)	白色松子(大)	内外面：2. S186.6 橙色	外面：タテハケ 内面：横方向のハケ ナデ	やや不良	
40	朝顔 肩～くびれ部	(5.6)	白色松子(大)	内外面：2. S185.4 明赤褐色	外面：タテハケ 内面：ナデ	やや不良	
41	朝顔 肩～くびれ部	(5.9)	白色松子(大)	内外面：S186.6 暗色	外面：タテハケ 内面：ナデ	不良	
42	朝顔 肩～くびれ部	(4.3)	白色松子(大)	内外面：S185.6 明赤褐色	外面：タテハケ 内面：ナデ	良	
43	朝顔 肩～くびれ部	(4.3)	白色松子(大)	内外面：2. S186.8 橙色	外面：タテハケ 内面：ナデ	やや不良	
44	口締部	(4.0)	白色松子	内外面：2. S185.6 明赤褐色	外面：タテハケ 内面：横方向のハケ 口締部ヨコナデ 縫部ナデ	良	
45	口締部	(6.4)	白色松子	内外面：2. S185.4 にぶい赤褐色	外面：タテハケ 内面：横方向のハケ 口締部ヨコナデ 縫部ナデ	やや不良	
46	口締部	(7.0)	白色松子	内外面：S185.4 にぶい赤褐色	外面：タテハケ 口締部ヨコナデ 内面：横方向のハケ 口締部ヨコナデ 縫部ナデ	良	
47	口締部	(11.7)	白色松子	内外面：2. S186.6 橙色	外面：タテハケ 内面：横方向のハケ 口締部ヨコナデ 縫部ナデ	やや不良	朝顔の可能性あり
48	口締部	(4.2)	白色松子(大)	内外面：S186.8 橙色	外面：タテハケ 口締部ヨコナデ 内面：横方向のハケ 口締部ヨコナデ	やや不良	
49	口締部	(4.0)	白色松子	内外面：S185.6 明赤褐色	外面：タテハケ 口締部ヨコナデ 内面：横方向のハケ 口締部ヨコナデ	やや不良	
50	口締部	(4.1)	白色松子(大)	内外面：2. S186.8 橙色	外面：タテハケ 口締部ヨコナデ 内面：横方向のハケ 口締部ヨコナデ 縫部ナデ	やや不良	
51	口締部	(4.0)	白色松子	外面：S186.6 橙色 内面：S184.1 暗灰色	外面：タテハケ 内面：横方向のハケ 口締部ヨコナデ	不良	
52	口締部	(4.6)	白色松子	外面：S186.6 橙色 内面：S182.1 暗灰色	外面：タテハケ 内面：横方向のハケ 口締部ヨコナデ	不良	
53	口締部	(5.5)	白色松子	外面：S186.6 橙色 内面：S184.1 暗灰色	外面：タテハケ 内面：横方向のハケ 口締部ヨコナデ	不良	
54	口締部	(3.9)	白色松子(大)	内外面：S186.4 にぶい赤褐色	外面：タテハケ 口締部ヨコナデ 内面：横方向のハケ 口締部ヨコナデ	やや不良	
55	口締部	(3.6)	白色松子	内外面：S186.6 橙色	外面：タテハケ 口締部ヨコナデ 内面：横方向のハケ 口締部ヨコナデ	やや不良	
56	口締部	(6.6)	白色松子	内外面：2. S185.4 にぶい赤褐色	外面：タテハケ (浅い) 内面：ナデ	やや不良	
57	口締部	(4.1)	白色松子	内外面：2. S185.4 にぶい赤褐色	外面：タテハケ 口締部ヨコナデ 内面：横方向のハケ 口締部ヨコナデ	良	
58	口締部	(2.9)	白色松子	内外面：2. S185.4 にぶい赤褐色	外面：タテハケ 口締部ヨコナデ 内面：横方向のハケ 口締部ヨコナデ	良	
59	口締部	(4.7)	白色松子	内外面：2. S185.6 明赤褐色	外面：タテハケ 口締部ヨコナデ 内面：横方向のハケ 口締部ヨコナデ	良	
60	口締部	(5.8)	白色松子	内外面：2. S185.6 明赤褐色	外面：タテハケ 口締部ヨコナデ 内面：横方向のハケ 口締部ヨコナデ	良	
61	中間後	(10.2)	白色松子	外面：S186.6 橙色 内面：S184.1 暗灰色	外面：タテハケ 内面：横方向のハケ ナデ	不良	3~4段孔
62	中間後	(6.7)	白色松子(大)	内外面：2. S185.4 にぶい赤褐色	外面：タテハケ (浅い) 内面：ナデ	やや不良	透孔あり
63	中間後	(4.6)	白色松子(大)	内外面：2. S185.6 明赤褐色	外面：タテハケ 内面：横方向のハケ ナデ	良	3~4段孔
64	中間後	(6.3)	白色松子	内外面：2. S185.6 明赤褐色	外面：タテハケ (浅い) 内面：ナデ	やや不良	透孔あり
65	中間後	(7.1)	白色松子	外面：2. S186.2 暗褐色	外面：タテハケ 内面：ナデ	不良	透孔あり
66	中間後	(9.5)	白色松子	内外面：2. S186.6 橙色	外面：タテハケ 内面：横方向のハケ ナデ	良	2~4段孔
67	中間後	(13.0)	白色松子(大)	内外面：S186.6 橙色	外面：タテハケ 内面：ナデ	やや不良	2段下段に透孔あり
68	中間後	(5.8)	白色松子(大)	内外面：2. S185.6 明赤褐色	外面：タテハケ (浅い) 内面：ナデ	やや不良	
69	中間後	(5.2)	白色松子(大)	内外面：2. S185.6 橙色	外面：タテハケ 内面：ナデ	不良	
70	1~2段	(15.9)	白色松子(大)	内外面：2. S185.6 明赤褐色	外面：タテハケ 内面：横方向のナデ	やや不良	2段に透孔あり
71	1~2段	(11.1)	白色松子(大)	内外面：S186.6 橙色	外面：タテハケ 内面：ナデ	やや不良	2段に透孔あり 透「の」
72	1~2段	(13.4)	白色松子	内外面：2. S187.4 にぶい赤褐色	外面：タテハケ 内面：ナデ	良	2段に透孔あり 透「の」
73	1段	(9.5)	白色松子	内外面：2. S186.6 暗色	外面：横方向のナデ 内面：ナデ	良	
74	1段	(5.6)	白色松子(大)	内外面：2. S186.6 橙色	外面：横方向のナデ 内面：ナデ	良	

第2表 塗輪観察表(3)

<現存種() 順位

No.	部位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	拍土	色調	成形・調整	性別	備考
75	人物 手	(3.6)	(4.0)	1.3	23.9	雪白(多) 赤色粒子	内外面：白淡紅/薄 い赤褐色	外面：背面貼付け ナデ 内面：ナデ 指屈曲	良	頭部を体にツケット状 に差し込む 術式型
76	人物 手	(4.2)	(4.2)	2.9	—	白色粒子 赤色粒子	背面：白淡紅/薄 い赤褐色	外面：ハケ後背面貼付け ナデ	良	頭部を体にツケット状 に差し込む
77	人物 手	(4.6)	(3.8)	(2.4)	—	白色粒子 赤色粒子(大)	内外面：白淡紅/薄 い赤褐色	外面：ナデ	良	
78	人物 手	(5.7)	(4.2)	2.1	31.9	白色粒子 赤色粒子	背面：白淡紅/薄 い赤褐色	外面：ナデ	良	背面赤褐色の可能性あり
79	人物 腕	(11.5)	—	4.0	236.9	白色粒子 赤色粒子(大)	背面：白淡紅/薄 い赤褐色	外面：ハケ ナデ	良	白土による腹状穴 中実
80	人物 腕	(7.2)	(4.2)	2.1	—	白色粒子 赤色粒子(大)	内外面：白淡紅/薄 い赤褐色	外面：ハケ 内面：ナデ	良	中空
81	人物 肘ひき	(3.6)	—	—	—	白色粒子 赤色粒子(大)	内外面：白淡紅/薄 い赤褐色	外面：ハケ 内面：ナデ	良	中空
82	人物 腹	(6.8)	—	—	—	白色粒子 赤色粒子(大)	背面：白淡紅/薄 い赤褐色	外面：タテハケ 背面貼付け後ナデ	良	
83	人物 腹	(4.2)	—	—	—	白色粒子 赤色粒子(大)	内外面：白淡紅/薄 い赤褐色	外面：ナデ突起部部分に円形側突 内面：ナデ 粘土練合板	良	
84	不明	(3.2)	(2.9)	(1.4)	8.7	白色粒子 赤色粒子	背面：白淡紅/薄 い赤褐色	外面：ナデ 実背面貼付け 円形側突変	良	
85	人物 肩	延3.1	—	(1.2)	—	白色粒子 赤色粒子	背面：白淡紅/薄 い赤褐色	外面：ナデ	良	ボタン状瘤付け
86	人物 肩 肩動き付	延3.3	—	(1.8)	—	白色粒子 赤色粒子	背面：白淡紅/薄 い赤褐色	外面：ナデ	良	ボタン状瘤付け
87	腋下部	(1.8)	—	1.1	96.7	雪白(多) 長石 赤色粒子	内外面：白淡紅/薄 い赤褐色	外面：タテハケ 内面：ナデ	やや不良	
88	腋下部	(5.9)	—	1.3	99.4	雪白(多) 長石 赤色粒子(大)	内外面：白淡紅/薄 い赤褐色	外面：タテハケ 内面：ナデ 粘土練合板	良	
89	腋下部	(5.7)	—	1.3	25.1	雪白 長石 布 赤色粒子	内外面：白淡紅/薄 い赤褐色	外面：タテハケ 内面：ナデ	やや不良	
90	動筋 腹	(7.5)	—	—	—	白色粒子 赤色粒子(大)	内外面：白淡紅/薄 い赤褐色	外面：タテハケ後ナデ 内面：ナデ	良	
91	腰部 腰	(6.9)	(5.0)	(2.5)	99.7	雪白(多) 長石 長石	内外面：白淡紅/薄 い赤褐色	外面：ナデ 内面：ナデ	不良	複合面糾撫
92	腰	(6.6)	(9.0)	1.8	108.1	雪白(多) 長石 赤色粒子	背面：白淡紅/薄 い赤褐色	外面：タテハケ 内面：1086.2 灰黃褐色	不良	入り口部分か
93	腰	(7.2)	(9.0)	1.6	137.9	雪白(多) 長石 赤色粒子	背面：白淡紅/薄 い赤褐色	外面：ナデ 内面：ナデ	やや不良	
94	東原	(3.5)	(5.7)	1.8	—	白色粒子 赤色粒子(大)	内外面：白淡紅/薄 い赤褐色	外面：上半ハケ 下半ナデ 内面：ナデ 指屈曲	良	入り口部分か
95	不明	(4.8)	(7.4)	1.1	108.4	雪白(多) 長石 赤色粒子	内外面：白淡紅/薄 い赤褐色	外面：ナデ 内面：ナデ	不良	
96	不明	(4.9)	(6.8)	1.1	33.1	雪白(多)	内外面：白淡紅/薄 い赤褐色	外面：丁寧ナデ 内面：ナデ	良	
97	不明	(4.6)	(3.1)	1.1	—	白色粒子 赤色粒子(大)	内外面：白淡紅/薄 い赤褐色	外面：ナデ 内面：ナデ	良	
98	腰 滑部	(5.5)	(6.2)	(2.8)	79.1	白色粒子 赤色粒子	背面：白淡紅/薄 い赤褐色	外面：ナデ 刺突変 内面：ナデ	良	歯冠をもたない 複数か
99	馬 耳	(6.9)	(3.0)	2.2	45.5	白色粒子 赤色粒子	背面：白淡紅/薄 い赤褐色	外面：ナデ	良	断面U字状
100	馬 胴	(5.3)	(3.2)	(2.5)	53.1	雪白(多) 長石	背面：白淡紅/薄 い赤褐色	背面：ナデ	良	
101	馬 哨頭板	(4.1)	(3.0)	0.8	14.7	雪白(多) 長石	背面：白淡紅/薄 い赤褐色	背面：ナデ 刺突変	良	
102	馬 脚	(4.8)	(2.2)	(2.2)	21.0	雪白 長石	背面：白淡紅/薄 い赤褐色	背面：ナデ 刺突変	良	
103	馬 脚	(2.2)	(2.6)	1.0	6.2	雪白 長石	背面：白淡紅/薄 い赤褐色	背面：ナデ 刺突変	良	
104	馬 脚	(2.8)	(3.1)	1.3	12.6	雪白 長石	背面：白淡紅/薄 い赤褐色	背面：ナデ ハケ 刺突変	良	
105	馬 脚	(4.4)	(5.4)	1.0~2.2	35.9	雪白(多) 長石	背面：白淡紅/薄 い赤褐色	背面：ナデ	良	

第3章 まとめ

今回の調査により神楽場1号墳から出土した埴輪には、大きく分けて2種類の胎土の埴輪が混在する。一つは、出土した埴輪の大半を占める赤色粒子（酸化鉄）を含むもの、もう一つは白雲母を含むものである。赤色粒子を含む胎土は下総系の埴輪に多く見られ、本古墳では円筒埴輪と、形象埴輪のうち人物（手・腕・腰部）、鳥形、家形が認められる。白雲母を含む胎土は筑波山南麓を中心に分布することから、「筑波山系の埴輪」と呼ばれている¹⁾。

下総系の埴輪

6世紀後葉、千葉県北部・下総地域を中心に分布する埴輪は、轟後二郎氏により「下総型埴輪」と命名された²⁾。その特徴は、突帯3条の4段構成で、第1突帯が低い位置に巡らされること、底径10cm前後で底径：口径：高さの比率が1：2：4になること、突帯のナデつけが甘く断面三角形か低い台形が多いこと、朝顔形埴輪はくびれを持たず肩部が不明瞭となること、などである。本古墳から出土した埴輪は、底径12.0cm～14.8cm、平均13.9cm、第1突帯の位置は低めだが突帯のナデつけは比較的丁寧で、断面形が台形を呈するものが多い。また、朝顔形埴輪はくびれ部を有し、肩部が丸く作られるなど、比較的古い様相が認められることから、下総型埴輪が確立する前段階に位置づけられる。

筑波山系の埴輪

一方、本古墳出土の「筑波山系の埴輪」は形象埴輪に限られ、人物（首、基台部か）、馬形（耳、轡の鏡板、鞍、鈴）、家形、盾形埴輪が該当する。量としては少なく全体の3%にも満たない。この中には、茨城県取手市市之代3号墳出土の埴輪³⁾を標識とする「市之代型」と類似する技法で作られた人物埴輪が見られる。市之代型は下総型埴輪成立以前のものと位置づけられている⁴⁾。鏡板を刺突で縁取る例は茨城県ひたちなか市馬渡3号埴輪⁵⁾に類似があり、鞍など皮革製品に刺突を施す例は茨城県土浦市真鍋町台古墳出土の馬形埴輪⁶⁾にみられる。

その他、特徴的な埴輪としては、白色の斑文を持つ人物埴輪の腕がある。似たような斑文をもつ人物埴輪は香取市城山5号墳にみられる。双脚の男子人物埴輪で、幅の広い肩甲を着けるなど茨城県筑西市西保末出土の男子人物埴輪と特徴が似ている⁷⁾。

まとめ

埴輪以外に時期を窺い知るための資料が出土していないため明確ではないが、以上の点から神楽場1号墳から出土した埴輪は6世紀前半のものと考えられる。併行する時期の埴輪をもつ古墳として、我孫子市久寺家古墳⁸⁾、印西市小林1号墳⁹⁾、成田市竜角寺101号墳¹⁰⁾、南羽鳥高野1号墳¹¹⁾、上福田4号墳¹²⁾、神崎町舟塚原古墳¹³⁾、武田1号墳・3号墳¹⁴⁾、香取市堀之内4号墳¹⁵⁾、片野前野辺田11号墳¹⁶⁾が挙げられる。また、現在整理中の流山市鰐ヶ崎三本松古墳からも、本古墳出土の円筒埴輪とよく似た特徴を持つ埴輪が出土しているとのことである¹⁷⁾。竜角寺101号墳、南羽鳥高野1号墳、片野11号墳では本古墳と同じく異なる胎土の埴輪も出土している。

今回の調査で、神楽場1号墳の埴輪は、小片とはいえ「筑波山系の埴輪」を含むなど、当初予想していたよりも豊かな内容を持つことが分かった。また、古墳時代後期において、「香取海」の水運を利用した常陸地域との交流が大須賀川源流部に近いところにまで及んでいたことが改めて証明されたように思われる。

注

- 1) 石橋 充 2004 「『筑波山系の埴輪』の分布について」『埴輪研究会誌』第8号 墓輪研究会
- 2) 森 俊二郎 1973 『埴輪研究』第1冊
- 3) 諸星政得・宮内良隆 1978 『市之代古墳群3号墳調査報告 付 取手市分布調査報告』取手市教育委員会
- 4) 稲村 繁 1999 『人物埴輪の研究』同成社
市之代型の提唱者である稻村氏は時期を6世紀後半としているが、市之代型を伴出する他の遺跡の類例などから、6世紀前半と判断した。
- 5) 大塚初重・小林三郎 1976 『茨城県馬渡における埴輪製作址』明治大学文学部考古学研究室
塙谷 修 1990 「常陸のはにわ—埴輪が語る古墳時代の常陸—」土浦市立博物館
- 6) 日高 憲 1995 『茨城県土浦市真鍋出土の馬形埴輪について』『埴輪研究会誌』第1号 墓輪研究会
黒澤彰哉ほか 2004 『茨城の形象埴輪—県内出土形象埴輪の集成と調査研究—』茨城県立歴史館
- 7) 松尾昌彦 2002 『はにわの十字路—古代東国との交流と地域性—』松戸市立博物館
- 8) 森 俊二郎 1969 『我孫子古墳群』我孫子市教育委員会
- 9) 渋谷興平 1975 『小林古墳群遺跡』小林古墳群発掘調査団
- 10) 安藤鴻基ほか 1988 『千葉県成田市所在竜角寺古墳群第101号古墳発掘調査報告書』千葉県教育委員会
- 11) 宇田敦司 1996 『千葉県成田市南羽鳥遺跡群Ⅰ』(財)印旛都市文化財センター
- 12) 仲村元宏 2016 『上福田古墳群・大竹遺跡群Ⅲ(その1~6)』(財)印旛都市文化財センター
- 13) 市毛 繁・多宇邦雄・安藤鴻基 1972 『舟塚原古墳 第一次発掘調査概報』舟塚原古墳調査団
- 14) 萩本佳弘 1972 『武田古墳群発掘調査概報』武田古墳群発掘調査団
- 15) 渋谷興平ほか 1982 『堀之内遺跡』東京文化史学会
- 16) 尾崎喜佐雄・小林敏夫・右島和夫・富沢敏弘 1976 『下総片野古墳群』芝山はにわ博物館
- 17) 鈴木徹氏の御教示による。今回、出土埴輪を流山市教育委員会 鈴木 徹氏・千葉大学 山田俊輔氏に実見頂き、主に下総系の埴輪については鈴木氏に、「筑波山系の埴輪」の埴輪については山田氏に所見を賜った。

参考文献

- 川西宏幸 1978 『円筒埴輪論』『考古学雑誌』64-2 日本考古学会
- 神山 崇・安藤鴻基・原田昌幸 1983 『房総の埴輪について』『房総風土記の丘年報』6 千葉県立房総風土記の丘資料館
- 萩原恭一 1985 『千葉県における埴輪の様相と展開』『埴輪の変遷—普遍性と地域性—』(三県シンポジウム) 北武藏古代文化研究会他
- 萩原恭一・高梨俊夫・神野 信ほか 1994 『千葉県文化財センター研究紀要』15 (財)千葉県教育振興財團
- 犬木 努 1995 『下総型埴輪基礎考—埴輪同品論序説—』『埴輪研究会誌』第1号 墓輪研究会
- 塙谷 修 1997 『霞ヶ浦沿岸の埴輪—5・6世紀の埴輪生産と埴輪祭祀—』『霞ヶ浦の首長—古墳にみる水辺の権力者たち—』霞ヶ浦町郷土資料館
- 増崎恵美子 2000 『下総のはにわ』『流山市立博物館調査研究報告書』17 流山市教育委員会
- 萩原恭一 2001 『下総型埴輪の再評価』『シンポジウム 繩文人と貝塚 関東における埴輪の生産と供給』日本考古学協会 茨城県考古学協会
- 萩原恭一 2002 『千葉県における古墳の地域性』『前方後円墳の地域色』東北・関東前方後円墳研究会
- 小澤重雄・本田信之 2002 『茨城県における古墳の地域性』『前方後円墳の地域色』東北・関東前方後円墳研究会
- 大学講堂考古学シンポジウム実行委員会 2002 『埴輪を見分ける』
- 萩原恭一 2004 『埴輪の生産と分布』『千葉県の歴史 資料編 考古4 〈遺跡・遺構・遺物〉』千葉県
- 石田守一 2005 『埴輪の世界』『我孫子市史 原始・古代・中世編』我孫子市教育委員会
- 萩原恭一 2007 『房総半島における埴輪の波及と展開』『古代文化』第60巻第1号
- 城倉正祥 2009 『埴輪生産と地域社会』学生社
- 小澤重雄 2013 『はにわの世界—茨城の形象埴輪とその周辺—』茨城県立歴史館
- 山田俊輔 2017 『古墳時代後期の「常総の内海」と埴輪』『埴輪研究会誌』第21号 墓輪研究会

写 真 図 版



遺跡周辺航空写真(国土地理院 CKT845-C12B-26 昭和59年12月撮影)

図版 2



周溝全景 南から



周溝 土層断面 南から



填丘裾調査区 土層断面 南東から



周溝 (2E-08) 土層断面 西から



周溝 (1F-85) 土層断面 北から

全景・土層断面



円筒埴輪 (1)



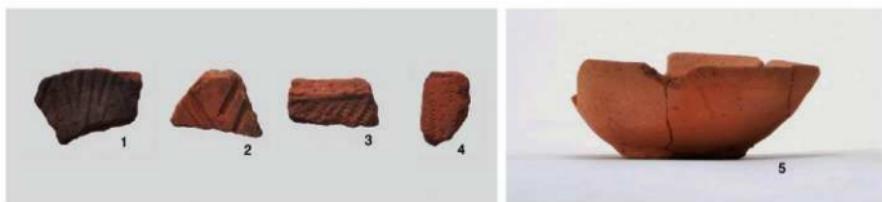
圆筒埴輪 (2)



円筒埴輪 (3)



形象埴輪等



その他の遺物

報告書抄録

千葉県教育振興財団調査報告第787集

一般国道51号(大栄拡幅)埋蔵文化財調査報告書
-成田市桜田神楽場遺跡-

令和3年3月19日発行

編 集 公益財団法人 千葉県教育振興財団

発 行 国土交通省
関東地方整備局千葉国道事務所
千葉市稲毛区天台5-27-1

公益財団法人 千葉県教育振興財団
千葉県四街道市鹿渡809番地の2

印 刷 株 式 会 社 ラ イ フ
千葉県成田市東和田595
